

2021年3月29日

あきる野市公共交通検討委員会

委員長 小根山裕之 殿

あきる野市公共交通検討委員会

委員

議案、「るのバスの利用実績と今後の展望に向けて」についての意見と提案

議案は、「車両増補については、現在のバスと同じ車両の購入費が令和2年度予算案に上程されたが、公共交通検討委員会における審議が不十分であるとして、否決されている。したがって、路線の拡充や増便についても、どのような市民のニーズがある等を十分に検討した上で、その必要について考えていく必要がある」として、「本市における今後の公共交通網充実に向けた市民ニーズや、導入・拡充すべき交通モードとその導入・拡充適地を検討するための基礎資料とするために、市民調査」の実施を提案している。

まずこれまでの公共交通の検討の流れを簡単に確認させていただきます。

前回の検討委員会で、平成28年6月の「あきる野市地域公共交通利用に関する市民意識調査結果」に、市民の「るのバス」に対しての強い要望が示されていること、またこの「市民意識調査」は、①地域ごとに市民アンケートを5,000人、②駅利用者5,000人③「るのバス利用者アンケート200人、総計10,200人のアンケート調査をまとめた大掛かりな調査であったことも報告しました。

この調査結果と、わたくしも参加しましたが、地域ごとに3回の、「ワークショップ」での意見から、「あきる野市公共交通のあり方検討会議」で検討し、まとめたのが、この「報告書」です。

そして5地域の公共交通空白地域を設定し、各地域でさらにアンケートを取り、それぞれ4回、累計20回のワークショップを行い、それに基づいて、空白地域の実証実験を2地域で設定し、実証実験を実施した、また実施中です。

ちなみに、「市民意識調査」に約270万円、「あり方検討会議」に、約830万円、公共交通検討支援業務委託費に約540万円併せて、合計約1640万円かかっています。今回の新たな「市民意識調査」も、100万円から150万円は、かかるのではないかと思います。

以下2点の問題点とそこから引き出される4件、提案させていただきます。

- ① これまでの調査で、「るのバス」の増発・増便に関しての、市民の強い要望が十分示されていること。また要望の強い休日運行に対してのアンケート結果は、導入にあたって、十分検討資料となること。

② 「市民意識調査」の概要では、「今後の公共交通網充実に向けた市民のニーズ」は、道路の幅から制約される交通モードと、これまでの調査結果で、行政から十分に提案できるものです。

「導入すべき交通モードの導入」について、デマンド交通のことなのか。であれば「ワークショップ」での検討なら理解できるが、アンケートで問うのは、なかなか難しい。であれば、実証実験とその評価は、この検討委員会でまず行うべきと思います。

「新型コロナウイルス感染拡大にともなう日常の交通行動の変化」は、現時点での行動変化であって収束した場合の変化を読み取るのはなかなかむずかしいと思います。

したがって、新たに「市民意識調査」をする必要はなく、以下の4件、提案します。

#### 提案

1. 現行車両の更新も考え、車両の購入を提案すること
2. 増補した車両で、増便と路線拡充、休日運行の実証実験を行う。  
基幹交通である「るの」バスが、1台では、ルートが長く、時間もかかりすぎ、実用に適していない。また今後補助交通の導入を考える上で基幹交通の充実は必須である。また秋川地区で要望の強いグリータウン、パークハイツ上段、二宮団地などへの路線拡充が図れる。休日運行に関しては、少なくとも土曜日の運行を考えること
3. デマンド交通の実証実験は、まず網代、引田段下の地区で行うこと
4. 空白地区での検討スピードをあげるため、深沢地区で、タクシーチケットの実証実験に引き続き、定路線型またはデマンド交通についての実証実験を検討すること

以上